

吉川地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和2年11月14日(土)
午後7時00分～8時30分
- 2 場 所 山田錦の館研修室
- 3 参加者 吉川地区 20人
市 22人(市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、企画政策課長、危機管理課長、財政課長、生活環境課長、環境課長、健康増進課長、観光振興課長、農業振興課長、都市政策課長、交通政策課長、市民生活課長、地域振興課長)
オブザーバー 5人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 吉川都市計画区域(非線引き)における土地利用方針について

【吉川地区】

法令に基づく土地利用規制により無秩序な市街化の進行に歯止めがかかっていると回答されたが、開発されていないのは吉川地区に魅力がないからか。地区外から見た際、吉川地区についてどのように認識しているか。

【都市整備部長】

吉川地区の魅力の有無ではなく、都市計画法による開発行為の手続き義務、農業振興地域の整備に関する法律による優良農地の保全、森林法による森林の適正利用の確保、兵庫県緑条例による適正な土地利用の推進等により、一定の無秩序な市街化の進行が抑制されているという意味である。吉川地区の都市計画については、旧吉川町で検討が行われた昭和52年頃に住民からの反対があったことから市街化区域と市街化調整区域の線引きを定めなかった経緯があるため、線引きが必要であれば住民の皆様と一緒に検討したい。

【吉川地区】

吉川地区をどのようなまちにしていくのかということに
対し、具体的な提案や前向きな回答が欲しい。

【都市整備部長】

例えば、市としては山田錦の郷活性化構想の策定に向けて
取り組んでおり、山田錦の郷周辺を中心としたまちづくりを
進めることも一つの方法である。ただし、住民の皆様がどの
ようなまちにしたいのかが重要であり、行政が押しつけるも
のではないため、まちづくりについて積極的にご意見いただ
きたい。

【市長】

山田錦の郷活性化構想については、よかわ活性化委員会に
おいて協議いただいているところである。市としてもまずは
山田錦の郷周辺を吉川地区の観光拠点にしたいと考えてい
るほか、令和4年頃完成予定の県立総合射撃場については、
国民体育大会が開催できるような施設とするよう県と調整
しているところである。また、魅力的な学校を設置すること
で市外に出た子どもたちが帰ってくるまちにしたいと考
えているほか、市内で最初の取組として、来年度から吉川地区
においてデマンド交通を導入する。今後、買い物をする場所
が減少するような場合は、民間事業者の経営を圧迫しない前
提のもと、山田錦の館において日常の買い物ができるように
するための検討が必要となることも考えられるため、山田錦
の郷活性化構想に関する協議の中で意見交換させていただ
きたい。

【吉川地区】

吉川地区の人口は激減しており、地域の生活拠点となる大
型スーパーがない。人口を増やすことは困難だが、吉川地区
は住宅が分散しているため、中心市街地のようなところの
人口密度を増やす施策も重要ではないか。対策を講じなければ、
2040年には吉川地区の人口は半減してしまう。行政と一
緒に具体的な協議を行いたい。

【市長】

よかわ活性化委員会等でぜひ具体的に協議していきま
しょう。買い物対策については、移動販売等を民間事業者にお

いて検討いただいている。ただし、吉川地区に限らず、利用者が少なければ店舗は存続できないため、ぜひ地域の店舗を積極的に利用していただきたい。また、市街化区域と市街化調整区域の線引きについては、平成29年の三木市都市計画マスタープラン見直し意見交換会において吉川町まちづくり協議会「みんなで地域づくり部会」より「地域は線引きを望まない」との意見があったこともご理解いただきたい。今後も積極的に意見交換させていただきたい。

【吉川地区】

吉川地区が非線引きであることの背景は理解したため、今後、区長協議会において議論を進めたい。過去の吉川工業団地構想の跡地において総合射撃場の設置が予定されているが、雇用の創出にはつながりにくいほか、県の土地のすべてが射撃場になるわけではないと考えるため、残りの土地についても活用していただきたい。また、吉安上地区と上荒川地区とを結ぶ道路の新設について、現時点では計画していないとの回答だが、上荒川地区の現状の道路を拡幅することも一つの方法だと考える。

【都市整備部長】

県立総合射撃場については、現在土質調査を含めた調査研究を行っており、実施設計が順調に進めば、令和3年度に造成工事を行い、令和4年秋の開場が予定されている。また、市道上荒川吉安線について、関西ゴルフ倶楽部の入口から約500mの区間の道路拡幅を予定している。関西ゴルフ倶楽部から市道上荒川内神線までの道路の新設については、市としても検討したが、距離が長く山深いことから莫大な費用を要するため、市道上荒川吉安線の道路拡幅を計画した。道路拡幅を実施する500mの区間から北側については、待避所の設置等が案として考えられるほか、射撃場完成後の交通状況に鑑み検討していきたい。

【市長】

総合射撃場の残地については、未買収部分が多数あるため、現状での開発は難しいと聞いている。また、射撃場を設置する際の対策として道路の新設を県に要望したが、莫大な費用を要するため、市としては市道の改良に取り組むこととした。

射撃場完成後の交通状況を見ながら、市道上荒川吉安線の整備や県道広野永福線の整備について要望するなど検討していきたい。

【吉川地区】

吉川地区は第1次産業が中心であるが、高齢化により今後も農業を続けていけるのか危惧している。市として優良農地の保全のためのプラン等があれば、地域に共有したい。

【産業振興部長】

農業従事者の高齢化は全国的に問題となっている。三木市においては、まずは地域において人・農地プランを作成いただき、プランに基づいた農地の集約化を目指している。国としても今後は法人化等により経営できる農業を目指すと聞いている。個人で農業を支えることが困難となっているため、中間管理機構の活用により、農地の集約を進めていくことになるかと思う。他地域の事例を参考にしながら、人・農地プランの作成等高齢化への対策を速やかに進めていきたい。

イ 山田錦の郷及び周辺の観光地について

【吉川地区】

黒滝についての案内標識が乏しく、観光客にとって場所が分かりにくい。黒滝の傍にある集落排水処理場跡地を駐車場にした場合、利便性が向上すると考える。ごみのポイ捨ての増加を危惧する回答があったが、ごみ箱の設置に加えて清掃活動を行えばよいと考える。黒滝周辺の美化活動を行っているボランティアグループもある。黒滝を吉川地区の観光名所にしたいという思いから、まちづくり協議会において現地を確認の上、多くの観光客に来ていただけるようさまざまな検討を行う予定であるため、市としてもよりよい案を検討いただきたい。

【産業振興部長】

黒滝については、これまでから駐車場に関するお問合せがあった。ボランティアグループによる美化活動や、まちづくり協議会による現地確認等、市として観光振興を進める際の地域の協力は大変心強い。ただし、観光地として有名になると、周辺の田畑にペットボトルが捨てられ、農業機械に混入

するなど問題となる場合がある。よかわ活性化委員会等で協議いただき、観光客の動線の確保や看板の設置等、検討いただいた案を市として進めていきたい。

【吉川地区】

人口減少により吉川地区の活力が下がっていくことへの危機感から、山田錦の郷活性化構想の検討に取り組んでいる。現在は山田錦の郷が吉川地区の観光拠点となっているため、山田錦の郷に加えて黒滝や稲田の町並みも一体的に楽しんでもらえるような計画を進めたいと考えている。行政から助言もいただきながら実現させたいため、ご協力いただきたい。

【副市長】

先日、北播磨県民局において地域創生戦略会議が開催された。これは、北播磨地域の5市1町の副市長が一堂に会して県の新年度予算について意見や要望を伝える会議であり、三木市は山田錦の郷の活性化について要望した。山田錦の館の農産物直売所が狭いため、利便性の向上に向けた整備についての支援を要望したほか、新型コロナウイルス感染拡大に伴いサイクリングが注目されていることから、県が作成する地域の観光資源が掲載されたサイクリングマップに山田錦の館を掲載すること及び山田錦の館の駐輪場の整備への支援を要望した。県の支援を受けながら吉川地区の活性化に取り組んでいく。

【吉川地区】

黒滝の遊歩道付近について、護岸工事が未施工で危険な箇所がある。加東土木事務所や市の担当課に確認いただいたが、現状のままであるため、対応をお願いしたい。また、黒滝周辺の活動団体として市民活動支援金の交付を受けて活動しているが、今年度で経過措置の支援が終了するため、今後どのような支援を受けられるのかお聞きしたい。

【地域振興課長】

護岸工事が行われていない箇所については、現場を確認させていただく。

【市民協働課長】

市民活動支援金については、2年前に制度改正し、新たな市民活動団体の立上げを支援する制度とした。現在、改正後

の経過措置として、引き続き支援を受けていた団体については、活動内容に応じた担当課においてどのような支援ができるか検討しているところである。現時点で今後の支援について詳細をお伝えすることはできないが、検討状況を取りまとめ、各団体の皆様には今年度中に新たな制度等についてお知らせする予定である。

【吉川地区】

市民活動支援金制度の改正に伴い、今年度から活動団体とまちづくり協議会が共同で事業を行っている。今後もご支援をお願いしたい。

ウ 土地の埋立てに関する規制について

【吉川地区】

土砂の埋立てについて、条例による規制は1,000㎡以上の場合のみであり、10m以上の高さで積み上げている事業者もいる。県の担当者が現地確認を行い、規制対象ではないと判断されたが、住民としては不安である。異なる事業者が新たに埋立てを行っても、1,000㎡未満であれば規制できない。三田市が独自に制定した条例では、自然環境及び良好な生活環境を保全するとともに、災害を未然に防止する目的で規制しており、基準も高さが1m以上、面積が500㎡以上の場合は市の許可が必要としている。三木市においても、吉川地区だけの問題ではないと考えるため、対策を検討いただきたい。

【生活環境課長】

県においては高さ1m以上及び面積1,000㎡以上の場合に許可が必要な制度となっている。土砂の埋立事業としながら実際は産業廃棄物を混入した事例があり、県が条例を制定した。市は県条例制定以前から環境保全条例で1,000㎡以上の土地の形状と性質を変更する場合、事前協議を義務付けている。今後の規制のあり方については、独自の条例を制定している他市の事例を参考に検討していく必要がある。

【副市長】

規制を厳しくすることについては、市の規模も考慮に入れる必要があり、三田市の事例を研究した上で、三木市の実情

にあった規制について検討させていただきたい。また、三田市以外に独自の基準を定めている市についても調査し、地域と一緒に検討を進めたい。

【市長】

市としては、条例の制定を目的とするのではなく、適切な対策を行うことが重要であると考えている。例えば、500㎡以上の事業について事前届出制とした場合に、届出をせず勝手に事業を進める事業者も出てくる。適切な対策を行うために、条例の制定が必要なのか、条例ではない方法がよいのか、検討させていただきたい。

【吉川地区】

許可制ではなく事前届出制とした場合であっても、災害が起こった際の責任者が明確化するため、条例の制定を検討させていただきたい。

エ 新型コロナウイルス感染症対策について

【吉川地区】

外国人住民の新型コロナウイルス感染について、言葉が通じないため感染対策や病院での診察が困難であることが全国的に問題となっている。三木市においても1,900人弱の外国人住民がおり、技能実習生である場合は日本語が不自由である。行政として早めの外国人住民に係る新型コロナウイルス感染対策が必要であると考えている。

【市民協働課長】

新型コロナウイルスの感染拡大以前から、医療通訳者不足は課題であったため、出入国在留管理庁や県の国際交流課に対してその充実を要望しているところである。三木市においてはシリア人やベトナム人の住民が多いが、アラビア語やベトナム語の通訳者は数少ないため、AI翻訳機を用いた意思疎通が現実的である。感染対策等の周知については、通常の広報では浸透しにくいいため、外国人住民のコミュニティ内の口コミが有効であると考えている。どのような周知方法がよいのか、国際交流協会と協力しながら検討しているところである。

オ 獣害対策の強化について

【吉川地区】

野生のイノシシとシカについて、現在の個体数の半減を目指すという国の目標が新聞に掲載されていた。三木市においては猟友会の尽力により捕獲頭数が増加しているが、市としての捕獲及び駆除についての目安や方針はあるのか。地域において対策を行っても、頭数が減少しない限り被害が後を絶たない。

【農業振興課長】

新聞等ではイノシシ等の個体数の減少についての記事が掲載されているが、野生動物であるため三木市内の頭数は把握できていない。猟友会において毎年約1,000頭が駆除されているが、これにより個体数が減少しているかどうかについては分からないのが現状である。農作物を荒らすイノシシやシカについては、地域の皆様に電気柵等の設置により自衛していただくことと併せて、猟友会による駆除によって対応していきたい。

カ その他

【吉川地区】

黒滝周辺に雑草が茂っており、観光客にとって見苦しいと思う。地域の力が弱くなっているため、除草や草刈り等が行き届かなくなっていると考え。地域としてもボランティアグループによる美化活動等において対応するため、市としても黒滝周辺を美しくしていただきたい。また、黒滝の近隣に駐車場が整備された場合、観光客の増加が見込めるため、必ず駐車場を設置するという回答が欲しい。

【市長】

地域としての思いが重要であるため、よかわ活性化委員会において十分に協議していただいた上で、市として総合的に判断させていただきたい。

【吉川地区】

山田錦の郷の活性化について県へ要望いただいたほか、吉川支所周辺の市道稲田中央線の整備工事の完了等により、吉川地区に対し尽力いただいていることを実感している。ただ

し、交通量が多く損傷が激しいなどの道路に関する苦情が多いため、引き続き加東土木事務所に整備を要望していただきたい。吉川地区の人口は、平成14年には約9,500人だったが、現在は7,000人を下回り、危機感を感じている。少しでも昼間人口や交流人口が増加するよう地域としても努力しているため、ご協力いただきたい。また、本年3月に策定した三木市総合計画について、これを実行していくに当たり、関係部署を集めた会議で進捗状況を協議するなどどのように推進していくのか。

【総合政策部長】

三木市総合計画は、市民の皆様にご協力いただきながら策定し、今年4月から施行している。総合計画に基づいた予算編成を行うほか、各部署において具体的な実施事業を定めた実施計画を作成し、進捗状況について毎年検証していく。市民の満足度を重要視しているため、数年に1回アンケート調査を行うなど、実施事業について総合的に評価していく仕組みを検討しているところである。また、数年に1回は地域に対して現状報告や意見交換を行う機会を設けたいと考えている。